



中暑の弁証論治

黄 懷龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

一、概論

(一) 定義

中暑とは、夏季炎熱の中で暑邪が内襲して発生する病証で、突然に高熱、発汗、神昏、嗜睡、ときには痙攣を起こす病証である。

西洋医学の日射病、熱射病、熱中症など関連疾患である。

《素問・熱論》に「先夏至日者為病温、后夏至日者為病暑」

暑邪の特徴

- 1、暑は陽邪、其性炎熱：暑は盛夏火熱の邪気で、人体に侵入して、高熱、赤顔、心煩、口渇、脈洪大など陽熱の症状が現れる。
- 2、暑性昇散、傷津耗気：暑邪侵入、多汗口渇、喜冷飲、尿少短赤、気短乏力、少気懶言など気津両虚の証が見られる。
- 3、暑邪上擾心神：暑邪上擾心神頭目、よく心胸煩悶、めまい、顔目紅赤などの症状がみられ、重いものは突然倒れ、意識不明なども現れる。
- 4、暑多挟湿：夏は高温と多湿で、暑湿内襲により、発熱煩渴など暑熱症状の他に、身熱不揚、汗出不暢、四肢怠い、胸悶悪嘔、大便溏泄などの湿阻症状が同時に見られる。



五行学説一心は火に属する

五行	火
五臟	心
五腑	小腸
五氣	暑
五体	脈
五官	舌
五液	汗
五季	夏



中医における心の生理

(一) 心は血脈を主る (心気、心血)

(二) 心は神を蔵す

心主
神志



精神・意識
思惟・睡眠

心
蔵
神



昼間： 「動」 → 覚醒
(衛気が陽経を循行している)。

夜間： 「静」 → 睡眠
(衛気は陰経を循行している)

(二) 病因病機

1、病 因

①外因：暑熱邪気に侵される

②内因：正気虚弱、衛外不固

《素問・刺志論》「气虚身熱、得之傷暑」”

2、病 機

暑邪内襲

①夏季の暑気は火熱の気である

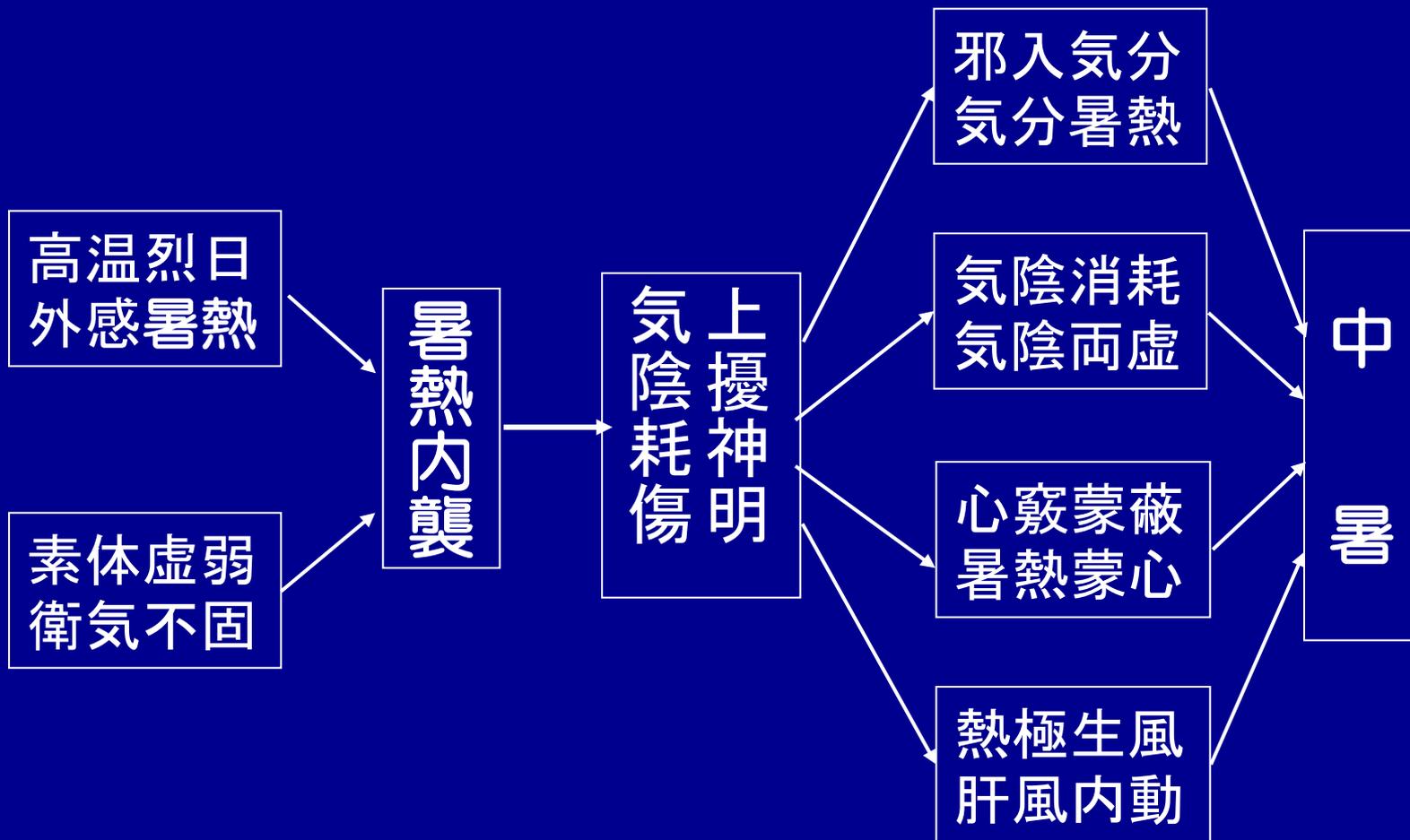
②火熱によって気陰を消耗する

③よく湿邪を伴う

3、病 位

心或は心包

中暑の病因病機



二、弁証論治

暑 邪

夏至から立秋までの間の、夏特有の邪気を暑邪という。

熱中症症状

めまい・失神・頭痛・吐き気・気分が悪くなる・体温が高くなる・口渇あるが欲しない・異常な発汗などは汗が出なくなる) など。

夏バテ症状

全身の倦怠感やだるさ・食欲不振・無気力になる・思考力低下・熱っぽい・イライラする・むくみ・立ちくらみ・下痢・便秘など。時に頭痛・発熱・めまいを伴うこともある

二、弁証論治

(一) 類証鑑別

	中 暑	中 風
発症季節	おもに夏季に発症	よく冬季あるいは春季に発症
発症環境	強烈な日差しあるいは高温	寒冷あるいは激しい気温の変化
誘因	炎天下あるいは高温下での運動	ストレス・過度の飲酒
症状	高熱・大量の発汗・胸悶・悪心・嘔吐・重症のときには昏倒・四肢の強直・角弓反張	突然意識を失って倒れる。不省人事・口眼歪斜・半身不遂・言語障害

(二) 治療原則

1) 基本原則：祛邪扶正

2) 治療方法

- ①清熱：暑の性質は炎熱—「気分の熱」「営分の熱」
- ②益気：暑の性質は昇散→気を耗傷
- ③養陰：暑の性質は炎熱→陰を耗傷
- ④除湿：暑は湿を伴うケースが多い
- ⑤開竅：暑邪は心包を犯して、痰熱によって心竅
蒙蔽する

(三) 弁証論治

1、気分暑熱（陽暑）

「**症状**」 発熱、大量の発汗、煩燥、口渇、顔面紅潮、尿の色が濃い、舌質紅、乾燥、脈洪大又濡弱

「**治法**」 清熱生津

「**処方**」 白虎湯加味

「**組成加減**」 石膏、知母、石斛、荷葉、竹葉、西洋人參、梗米、甘草。怒りに竜骨を、悪心に姜半夏を、大便乾結に大黃、玄参を加える

2、氣陰兩虛（陰暑）

「**症狀**」 身熱、發汗、精神衰弱、無氣力、食欲不振、舌質淡、苔少、脈細數

「**治法**」 益氣生津

「**處方**」 生脈散加味

「**組成加減**」 西洋人參、麥門冬、五味子、龜骨、牡蛎、甘草

3、暑熱蒙心（暑厥）

「**症状**」 高熱、煩躁、突然意識が消失、発汗、胸悶、舌質紅絳、脈洪数

「**治法**」 清心開竅、涼血解毒

「**処方**」 清营汤加減

安宮牛黄丸（清熱解毒・開竅醒神）

至宝丹（化濁開竅、清熱解毒）

紫雪丹（清熱開竅、熄風鎮痙）

「**組成加減**」 生地黄、玄参、麦門冬、丹参、連翹、金銀花、黄連、水煎服、羚羊角(研末)冲服。昏睡の人に郁金、石菖蒲を、口渴に花粉、知母を、瘀血が重くは桃仁、紅花を加える。

4、肝風内動（暑風）

「**症状**」 高熱、神昏、四肢の痙攣、牙関緊閉、便秘、舌質紅、苔黄膩、脈弦滑

「**治法**」 熄風清火、豁痰開竅

「**処方**」 羚羊鈎藤湯

「**組成加減**」 羚羊角、桑葉、川貝母、生地黄、鈎藤鈎、菊花、白芍、竹茹、茯神、蜈蚣、全蝎、僵蚕、生甘草。煩熱者に石膏、山梔子を、痰者に天竺黄、胆南星を、頭痛重者に夏枯草を、陰虚動風、三甲复脈湯を加える

(三) 予防とケア

- 1、炎暑の季節には暑気を避ける措置をとる。
- 2、生活リズムを規律正しくする。
- 3、睡眠を十分にとる。
- 4、水分とミネラルを十分に補給する。
- 5、西瓜の汁、緑豆スープなどの祛暑清熱の効能があるものを飲む。



ご清聴ありがとうございました！